
暁木会会員 各位

平成 23 年 3 月 吉日
暁 木 会

<http://www.gyoubokukai.jp/>

平素は、暁木会の活動にご支援とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

今回の暁木会ニュース第 19 号では母校に関する話題を多く載せました。近況報告に始まり、就職状況や研究報告、今年から暁木会に入会される学生さんの思い出メッセージなど、読み応えのある内容となっています。また、同窓の活躍や支部活動等に関する内容もごさいます。ぜひご通読頂けますようお願いいたします。

なお、本編は白黒ですが、カラー版をホームページに掲載する予定ですのでご覧下さい。

母校の近況報告

平成 22 年度専攻長・学科長 教授 川谷 充郎先生

暁木会会員の皆様には、日頃から一方ならぬご支援を賜り心からお礼申し上げます。定例となっています暁木会と教室との意見交換会を、今年度も 6 月と 10 月、1 月の 3 回開催致しました。そこでの話題として会費会員増強があがり、その一つとして現役学生に同窓会の実態を知ってもらうことが必要ではないかということになり、名簿の配布および暁木会ニュースの掲示が実施されました。特に、名簿の配布を就職活動が始まる学部 3 回生にも広げたことが特筆すべきことです。また、暁木会ニュース掲示のために掲示板を教室に寄付頂きましたことに深く感謝致します。

さらに、JABEE（日本技術者教育認定機構）活動の一環として平成 20 年 3 月に実施しました「卒業生への学習・教育改善に関するアンケート調査」では 43 名の会員より回答を頂き、その結果が今年度に取りまとめられ、教室会議ならびに暁木会との意見交換会でも報告されました。そこでの自由記述欄に記されました会員の方々の母校の教育を想う熱い気持ちに感動すると共に、厳しいご指摘を頂いておりますことに身を引き締めています。以上に記しました学科同窓会との意見交換会および卒業生へのアンケート調査の実施は工学部他学科では例のないことであり、学部教育年次計画の取り組み状況報告の裏付けとしても活用されています。

さて、平成 19 年春に改組された市民工学科の一期生が今年度 4 回生に進級しました。建設学科土木工学コース時代に 15～20%であった留年者が 10%未満となり、「市民工学」を学ぼうとする彼らのモチベーションの高さの表れではないかと感じています。また、2 年前の本欄に当時の喜多秀行 専攻長・学科長が入試に関して“前期日程の志願者倍率で見ると、市民工学科は 20 年度と 21 年度の 2 年続けて本学工学部を構成する 6 学科中で最も高い倍率へと躍り出ています”と報告されていますが、平成 23 年度の入試においても市民工学科は 4.1 倍と同様の傾向を保持しています。

教室の人事異動についての大きな出来事は、朝倉康夫 教授が昨年 12 月末をもって退職され、東京工業大学に異動されたことです。朝倉教授の在任期間は 8 年 9 ヶ月でありまし

たが、教室の教育・研究発展への貢献は絶大であり、また平成15年度からの21世紀COEプログラム「安全と共生のための都市空間デザイン戦略」推進に際しては事務担当として献身的な働きをして下さいました。教室にとって大きな痛手ではありますが、新たな場で土木界のために益々活躍下さることを祈念致します。年度内は神戸大学を兼務下さいます。前後しますが、昨年3月末に富田安夫 准教授が退職され、近畿大学教授に就任されました。また、4月に竹林幹雄 准教授が本学海事科学研究科教授に昇任されました。それらの後任として、井料隆雅 助教が8月に准教授に昇任され、9月に東北大学より織田澤利守 准教授を迎えました。平成23年2月現在の教員と所属教育研究分野は表-1の教育研究体制を参照下さい。

さらに、新年度4月には内山雄介 UCLA 研究員が准教授に就任予定（平成21年2月教授昇任の芥川真一准教授後任ポスト）、桑野将司 広島大学助教が助教に就任予定（井料 助教後任ポスト）です。特に、内山 准教授はこれまで市民工学教室に無かった地球環境論・環境動態解析分野を担当頂くこととなります。また、鳥居宣之 助教が昨年3月末より約1年間、英国 キングストン大学で在外研究を行っています。これは工学研究科長裁量経費による若手教員長期海外派遣制度によるものです。4月の帰国後は、在外研究の成果を活かして大きく飛躍下さることが期待されます。このように今年度は人事が大きく動きましたが、教室として新たな人材を得て、さらなる発展を期するものです。平成23年度の専攻長・学科長は芥川真一 教授，就職担当は中山昭彦 教授，教学委員は井料隆雅 准教授です。

今回は触れませんでした。が、学生の就職・インターンシップでのお世話、「プロジェクト・マネジメント」の担当をはじめとして暁木会の皆様のお協力・ご支援は、市民工学専攻・市民工学科の運営・発展に欠かせないものとなっております。教室を代表して改めて御礼申し上げますとともに、引き続き更なるご指導・ご鞭撻の程を重ねてお願い申し上げます。

表-1 市民工学専攻・市民工学科の教育研究体制（平成23年2月現在）

講座	教育研究分野	教授	准教授	助教
人間安全工学	構造安全工学	川谷充郎	三木朋広	
	地盤安全工学	澁谷 啓	加藤正司	鳥居宣之
	交通システム工学	喜多秀行	井料隆雅	
	地盤防災工学	田中泰雄*	吉田信之*	
	地震減災工学	芥川真一	楢田泰子	
	流域防災工学	藤田一郎 大石 哲		神吉和夫
環境共生工学	環境流体工学	中山昭彦		斉藤雅彦*
	水圏環境工学	道奥康治	宮本仁志	
	地圏環境工学		上西幸司*	
	広域環境工学	飯塚 敦*	河井克之*	
	都市保全工学	森川英典		
	都市経営工学		織田澤利守	

* 自然科学系先端融合研究環 所属

就職状況の報告

教授 喜多 秀行先生

この春に市民工学科と市民工学専攻を巣立つ学生の就職支援を担当させていただきました。お聞き及びのとおりに就職環境は極めて厳しく、厚生労働省発表の大学生の就職内定率は調査が始まった1997年度以降の最低水準となっています。このような中、全国の暁木会会員の皆様には求人のお申し出はもとより、ガイダンス等での情報提供やリクルーターとしてのきめ細かなご支援など多大なるご協力を賜りました。心よりお礼を申し上げます。

1月20日時点での内定状況は下表のとおりです。今年度は地方公務員を志望する学生が昨年度の11名から22名に倍増しました。また、鉄道、道路、エネルギーといったいわゆる発注サイドが多いこともひとつの特徴です。総合建設業は8名で1名増、コンサルタントは4名で昨年並みでしたが、国家公務員がゼロと霞ヶ関叩きの影響なども感じられます。とかく一面的な情報に左右されがちな学生も少なくありませんので、さまざまな分野で活躍しておられる先輩諸氏の貴重な経験談などを就職について考え始めた学生に折に触れてお伝えいただければ有り難く存じます。

来年度の就職支援担当は中山昭彦教授です。この記事をご覧になる頃は来春に向けた就職活動の最盛期かと思われませんが、皆様の一層のご支援・ご協力の程を重ねてお願い申し上げます。

平成23年3月修士修了・学部卒業予定者の就職内定先・進学予定先一覧

業種	就職内定先・進学予定先
地方公務員	東京都 (2)、京都府 (*1)、奈良県 (1)、兵庫県 (1)、石川県 (1)、横須賀市 (*1)、京都市 (*1)、宇治市 (*1)、東大阪市 (*1)、堺市 (1)、茨木市 (*1)、枚方市 (*1)、西宮市 (*1・2)、神戸市 (*2・2)、姫路市 (1)、福山市 (*1)
鉄道	JR 西日本 (2)、JR 東日本 (1)、JR 東海 (1)、近畿日本鉄道 (1)
高速道路	西日本高速道路 (1)
総合建設業	大成建設 (*1)、鹿島建設 (*1) 戸田建設 (1)、奥村組 (1)、大林組 (1)、前田建設工業 (1)、清水建設 (1)、東亜建設工業 (1)
コンサルタント	建設技術研究所 (1)、日本総合研究所 (1)、NIPPO (*1)、オービック (1)
鉄鋼、鉄構・プラント	JFE エンジニアリング (*1)、
エネルギー	電源開発 (1)、大阪ガス (1)、関西電力 (1)、東京ガス (*1)
IT、シンクタンク	NTT データ (1)、サンモアテック (1)、システム科学研究所 (1)
住宅関連、不動産等	旭化成ホームズ (*1)、MID 都市開発 (1)
その他メーカー、商社、流通他	関西テレビ放送 (*1)、ジュピターテレコム (1)、JTB 西日本 (*1)、日本電気 (*1)、三井造船 (1)、伊藤忠丸紅鉄鋼 (1)、日興コーディアル証券 (*1)、アチーブメント (*1)、ニュートン (*1)、イナダ (*1)、ホンコンマダム (1)、錦城護謨 (1)、プロトコーポレーション (1)
進学	Curtin University 大学院博士後期課程 (1)、神戸大学大学院博士後期課程 (2)、神戸大学大学院博士前期課程 (*43)

(2011年1月20日現在)

()内は人数 *印は学部卒業予定者

現役最前線

「レールのでこぼこ」にみいられて...

財団法人鉄道総合技術研究所 軌道技術研究部 田中博文 C05M
 神戸大学修士課程を修了して、早くも6年が過ぎました。学生のころから研究者志望だった私は、学生時代は地盤系の研究室に在籍していたので、社会人になってもそのまま地盤を相手に研究ができるとおぼろげに思っていました。しかし、世の中はそんなに甘くないものです。鉄道総研に入社後は、全く違うものを相手にしております。今回は、そんな私の研究内容の一部についてご紹介いたします。



鉄道総研では、「総合技術研究所」と名乗るだけあってさまざまな研究分野があります。もちろん、地盤に関する研究室もあります。その中でも、私は、「軌道管理」という研究室に所属しています。ここでは、軌道のメンテナンスに関する研究をしています。軌道とは、簡単に言うと鉄道車両を支える2本のレールとそれを支えるまくら木やその下の路盤のことです。線路のメンテナンスは意外とシビアで、mm単位でレールの曲がりやを管理しなければなりません。

最近の私の研究テーマの中に、「軌道状態を効率的にモニタリングすること」があります。長手方向に非常に長い構造物である軌道を効率的にメンテナンスするには、どこにどのような不具合があるかを的確に把握する必要があります。日本の鉄道網を全てつなげると数万kmにもなります。その様なとてつもない延長の線路の状態を診断するために、皆さんもご覧になったことがあるかも知れませんが、軌道検測車という特殊な車両が、定期的に走っています。しかし、路線によっては数カ月に1度しか走らない場合もあります。そこで、毎日走っている営業列車で軌道の状態をモニタリングしてしまうおう！というアイデアがあります。

中でも、私が最近、立ち向かっているのが、「波状摩耗」と呼ばれる現象です。波状摩耗とはレールの表面に波長十～数十cm、振幅数十～数百 μ m程度の周期的な凹凸ができる現象です。一般的には、急なカーブのレールに発生しますが、困ったことに必ずしもそうでは無く、線路のいろんなところに現れます。そんな μ mレベルの小さな凹凸が何なの？と思われるでしょう。しかし、鉄（レール）と鉄（車輪）が接触しながら走行する鉄道車両にとってはこの小さな凹凸が大問題なのです。地下鉄や都市部の急なカーブに差ししかかったときに、急に「ゴ～ッ」といううるささを感じたことは無いでしょうか？車内で隣の人の声が聞きとれないくらい大きな雑音が生じたことは無いでしょうか？それが、波状



写真1 レールに生じる波状摩耗の例

摩耗の仕業なのです。この波状摩耗は、レールの表面を特殊な車両で削ったり、レールそのものを交換したりすれば無くなります。しかし、またすぐに発生するので結局はいたちごっこになります。研究室に配属されて数年は、効率的なメンテナンスをするために、波状摩耗の発生位置と程度を車上からモニタリングする手法を研究していました。しかし、最近では、波状摩耗そのものを発生しなくするような方法を研究しています。数年後（十数年後？）には、静かで快適な車内環境を皆さまに提供できるように、これからも軌道と向き合っていきたいと思っております。

南田辺北地区 2・3工区整地排水工事

株式会社不動テトラ南田辺北地区作業所 萬木 政雄 C98



現在私が携わる工事現場について紹介します。当現場は独立行政法人都市再生機構(UR)が事業主体である関西文化学術研究都市の一環である南田辺北地区の土地区画整理事業です。地区全体の開発面積は 64.5ha と、まさに町一つができる相当規模の開発現場です。そのうち私が受け持った工事は足かけ3年にわたる工期で、東京ドームおよそ半分の容積分にあたる盛土工等の粗造成工事を手掛けました。地区は「同志社山手」の愛称が付けられ、近隣にある同志社大学京田辺キャンパスの学生が街作りに参加するなど、UR と同志社大学とが連携して新しい街づくりを行っています。既に平成20年5月には第1期街開きが行われ、現在は約270世帯がこの街で新しい生活を始めています。

私が監理技術者として本工事に携わって既に2年以上が経過し、本年1月31日に竣工を迎えます。工事着手時はスズメバチと戦いながら樹木の伐採をしたり、切土・盛土施工中は降雨があるたびに土砂や濁水の地区外への流出有無の確認にあちこち走り回ったりしたことは今となっては懐かしい思い出であり、非常に勉強になる現場でした。

「地図に残る仕事」というCMに触発されたのが神戸大学建設学部の志望動機でした。グーグルマップなどに今回作った街が新たに追加された時、「よしよし」とほくそ笑む予定です。



着手時



完成



地区南側造成完了

スタートライン

より安全で快適な鉄道を目指して

西日本旅客鉄道広島支社 寺島裕樹 C08

本年度4月より西日本旅客鉄道株式会社に入社しました寺島裕樹と申します。在学時は都市安全研究センター河井克之准教授のもとで、地盤工学の研究を行ってまいりました。

さて、私はJR西日本に入社して、1ヶ月の本社研修、約5ヶ月間の現場研修を経て広島支社徳山地域鉄道部に配属となりました。現在行っている仕事は、保線と呼ばれる線路の保守・管理を行う業務になります。現場の最前線で、列車が毎日安全に走行することができるよう線路の状態を検査・監視し、必要に応じて修繕作業を行います。

仕事をし始めた頃の印象は、日々の業務が非常に危険の伴うものということでした。重たい器具や検測道具を持って、日中客車や貨物列車が走行している時間帯に線路に立ち入ることも多く、常に自分や周囲の安全を考えながら作業や検査を行っています。現在従事している保線の業務は、何か新しい構造物を建設するといった仕事ではありません。しかし、自分で線路の悪いところを見つけ、汗だくになりながら作業を行い修繕できたときは、とても達成感を感じました。

現場に配属されて最初のころは、何をしたらいいのか全くわからず、反省してばかりの日々でしたが、ようやく仕事にも慣れてきて、最近は自分でできることも多くなってきました。当面の目標は、周囲から頼られる存在となることです。特に現場での仕事は、チームワークの大切さをいつも痛感するからです。

昨年の今頃は修士論文の提出に向け研究に明け暮れていたことを思うと、本当にこの一年間はあっという間でした。これからも一日一日を大切にしながら、社会人として日々精進していきたいと思えます。



わたしの『ものづくり』の形

清水建設株式会社 土木技術本部技術計画部 山田竜太郎 C08

本年度4月より清水建設株式会社に入社いたしました、山田竜太郎と申します。在学中は、河井先生の指導のもとで締固めのメカニズムに関する解析などを行ってまいりました。

入社後、2ヶ月の研修期間を経て、本社の技術計画部に配属となりました。主な業務は、仮設計画を中心とした現場への技術的な支援と営業案件への支援です。私も現在では5つの現場と1つの営業案件を担当させて頂いております。具体的には、仮設構造物に関する検討書・計算書の作成、仮設図面の作成とチェック、役所や発注者に提出する書類の作成などを行っています。時には技術的な説明・提案を行い、発注者との協議に参加することもあります。

仮設構造物は、本設の構造物が出来上がってしまうと撤去されてしまう、もしくは見えない場所に埋まってしまうものです。しかし、業務を通じて、その仮設構造物が出来上がる構造物の質を大きく左右する、施工にとってとても大切な要素であると学ぶことが出来ました。

実際に現場へ出て施工管理を行う、所謂『ものづくり』のイメージとは異なる部署ですが、



「どうやってこの構造を成り立たせよう」や「どういうステップを踏めば施工が可能なのだろう」などと考えながら図面や計算書を読み込むのは、非常に楽しくやりがいのある仕事です。また、実際に検討した内容を元に施工が行われた時には、自分の仕事が『ものづくり』の一端を担っているという事を実感できます。

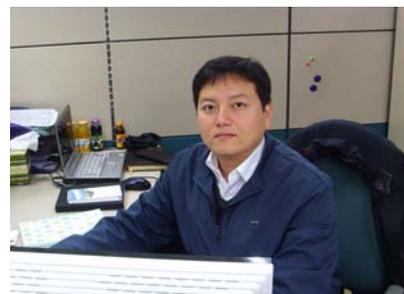
入社して間もなく 11 ヶ月になりますが、それでも失敗を繰り返して先輩や上司に指導を受ける毎日です。技術的なことだけでなく、議事録・報告書の書き方や報告・連絡・相談のタイミングなどその内容は多岐に渡り、自分は社会人としてなんてレベルが低いのだろうと気落ちしてしまうこともあります。それでも、解決方法が見つかった時に見せる現場の方々のほっとした顔を思い出すと、また頑張るって業務に励もうという気持ちになります。

今はまだ先輩・上司の方の考えた内容を一緒に検討したり、指示に従って書類や図面を作成したりしているのが現状です。これから経験・知識をしっかりと蓄え、自分の考え出したアイデアで現場を助けることが出来る技術者になりたいと思っています。

国家研究機関での研究職

韓国建設技術研究院 基盤施設研究本部 蔡鍾吉 C08D

私は、澁谷先生のご指導のもとで 2007 年度に博士学位を取得し、その後 2 年間の研究員の経験を経て 2009 年 5 月に韓国に帰国致しました。現在、国の研究機関である韓国建設技術研究院(Korea Institute of Construction Technology ; KICT,<http://www.kict.re.kr/>)という日本の土木研究所のようなところで働いております。KICT は、5 つの研究本部（建設品質政策本部、基盤施設研究本部、水資源・環境研究本部、建築都市研究本部、建設システム革新研究本部）に 16 の研究室が配されており、800 人もの研究員を擁する国内第一の研究機関です。私は約 90 人が勤める基盤施設研究本部の地盤研究室に所属し、斜面分野、トンネル分野、地盤改良分野など幾つかのグループのうち、基礎研究グループで業務を行っています。地盤研究室はほとんどの研究員が海外での留学経験があり、海外の沢山の研究機関との MOU 締結を通じグローバル化を進めています。現在の主な研究は、①都市建築構造物の再生時に使用できる高効率マイクロファイルの開発、②2～5MW 級の海上風力発電機設置のための基礎施工システム開発、③南極のような極寒地での基礎設計システムの構築です。研究は KICT 単独ではなく、施工専門会社や装置製作会社、大学などの様々な機関と共同でしています。我々の仕事のメインは研究業務の管理であり、入社する前に想像していた、例えば崩れた斜面で土を採取し、各種土質試験や数値解析などを行い、それから得た結果を持って論文を書く、というような大学の研究室生活のような業務は一部にしか過ぎません。KICT は国の研究機関なので、お金にならない研究、すなわち会社ではやりにくいことをやるべきでは、との思いも持っています。



一方、最近韓国も日本のように国内での工事の発注が減少し、将来の生き残りの道を探さなければいけない厳しい状況になってしまい、多くの建設会社が赤字覚悟で海外工事受注のために必死に動いています。基礎グループを含む KICT では、建設市場の世界的流れを予測し、研究と開発(R&D)事業を主導することによって、近い将来に要求される技術を備えることも使命の一つとしております。現在両国とも不景気で苦しい状況ですが、目の前の出来事だけに振り回されず、個々人も語学能力や専門知識を広げるなどの準備をして明るい将来を迎えましょう。

私の学生時代

兵庫県 寺谷 毅 ㊦

神戸市生まれの私は、神戸の小学校、中学校、高校と進学し、さらに神戸の予備校まで卒業し、1981年4月に入学しました。

灘区の実家は六甲山の麓に位置し、私は、子供の頃から裏山（六甲山）での昆虫採集や、中学時代は友人とキャンプに行くなどして六甲山に親しんできました。

そのせいか、大学入学とともに、当時六甲山をフィールドに様々な野外活動を行っていた神戸大学ユースホステルクラブ（略称：K.Y.C）の門を迷わずたたきました。

ユースホステルクラブというと、全国のユースホステル施設を訪ね歩く団体と思われる方も多いのですが、K.Y.Cは、週末に六甲山でキャンプし、夏休みには大学近辺の子供達（小学生）に参加を呼びかけ、近畿圏のキャンプ場で野外活動を行っていました。文化会に所属し軟弱なワングルと呼ばれていましたが、当時は子供達に「自然のすばらしさを如何に伝えるか」を真剣に議論していたことを思い出します。

私はこのクラブで3回生の時に部長を務めました。部員数がおおよそ100名と多かったこともあり、クラブの運営には悩まされましたが、当時の経験が社会人になってからの大きな財産となっています。

一方、学業はというと、クラブに熱を上げていたせいか、土木工学科同級生とのつきあいは希薄で、4回生になった当初、私は研究室にもあまりよりつかない不真面目な学生でした。そんな私に「これからは、研究室を我が家のように思え」と諭してくれたのが、先輩（院生）のYさんでした。当時、私の研究室（5講座学部生の部屋）は1階西北の実験室の中2階に在りましたが、先輩の一言が心に響き、その後は研究室がまさに生活の場となり、卒業の頃には同室の仲間がまさに家族ようになっていました。余談ですが、公務員試験の勉強を開始したのも、ドラマ「スクールウォーズ」に涙したのも、花札を覚えたのもこの室でした。全てを知った上で、おおめに見てくれた松梨先生には感謝のしようもありません。

顧みますと、大学での4年間は、生涯の友、恩師、先輩に巡り会うための大切な期間であったと思います。そして大学は、勉学、サークル活動、遊び等を通じて社会に出るための様々な訓練を受けた場であったと思います。

私は、今、大学から10分ほどの所に住んでいます。時々キャンパスに足がむきます。教育学部から法学部、経済・経営学部、工学部へと神戸港を見下ろしながら坂を下るとき、神戸大学の卒業生であることにあらためて強い誇りと責任を感じます。



1983年夏 於 大雪山系旭岳



懐かしの5講座研究室

研究報告(開水路合流の流れ構造)

大学院工学研究科市民工学専攻 博士後期課程 門谷 健 C06

私は河川工学を専門とする研究室に所属しています。ここでは開水路合流についての研究を報告させていただきます。河川などの水路では、流路が直線的であれば水面と底面における流れの向きは、ほぼ同じ向きにそろっており平面的な流れとなっています。しかし合流部のように急激に流れの向きが空間的に変化する場合には、水面と底面でそれぞれ異なった流れの向きを持ちます。このような流れ構造が水路底面に与える影響は当然直線的な水路とは異なった特性を持ち、河床形状などに影響を与えます。



作成した実験水路

本流に対して直角に合流するような流れの研究はこれまでも多く行われているのですが、私達のグループは逆に合流角度が 15 度と比較的に小さいケースではどのような流れの構造が形成されるのかということに着目して、流れの特性を明らかにすることを研究の目的としました。

本研究ではまず合流部流れを再現することのできる固定床の実験水路を製作しました。この水路でトレーサ・染料・レーザー光膜などを用いて流れ場の可視化を行い、高速度カメラで撮影した画像を解析することで流れ場の特性を調べました。PIV という画像計測手法による詳細な計測によって、合流後の二つの流れの混合層付近では収束した流れが下降流を形成して底面付近で広がるようならせん渦という渦構造が形成されていることが明らかになりました。次に水路の路床に無煙炭破碎粒子を敷設して移動床水路とし、そこに水を流して動的平衡に至るまで地形形成を促した後、表面流速の計測とステレオ撮影による合流後の水路床形状の計測を行いました。この移動床実験の結果、合流混合層では周囲よりも水路床が低下する局所洗掘と、逆に支流側の剥離域での堆積が発生することを確認しました。これらの固定床実験と移動床実験とで得られた速度場の比較および実験時観察から、小角度合流部においてははらせん流が形成されて下降流が発生し、そこでは上流から底面で運ばれてくる土砂の供給が阻害されることにより、局所洗掘が引き起こされていると考えられます。

このように実験水路では小角度で合流する流れ場の特徴的な現象を確認する事ができましたが、実河川では実際にどのような流れが形成されているかを詳細な計測を行って確認することも必要です。また数値解析的な手法によって先に挙げた洗掘のメカニズムの検証を行うことも今後の課題と言えます。

新入会員の大学生生活思い出メッセージ

市民工学科 大槻 剛瑠

卒業まであと約1か月となり、長かったようで短かった大学生生活4年間も終わりを迎えようとしています。入学当初は、大学生、一人暮らしという新しい生活に戸惑うこともありましたが、授業、サークル、遊びと忙しくも楽しい日々を過ごしました。この大学生生活4年間でいろいろなことを経験できたと思います。その一方で休日をだらだらと過ごし、貴重な学生生活を無駄遣いしたことも今ではいい思い出です。

4回生からは研究室に配属され、また新しい生活が始まりました。これまでは授業の時間くらいしか話すことのなかった先生方や、先輩方とも話すようになりました。研究室で勉強することの多かった私ですが、先輩方、先生方と話すことでいい息抜きになりました。また、就職活動についての話を伺ったりアドバイスを頂いたりといろいろな面でお世話になりました。そのおかげで就職活動に変に気負うことなく臨めたのかもしれない。

本格的に研究に取組み始めると、研究室で過ごす時間も増えました。先輩や先生に研究についての質問に行くと丁寧に教えてもらえ、一息つけば先輩・後輩関係なく他愛のない会話をする、とても楽しい時間を過ごせました。発表後の飲み会やゼミ旅行などのイベントも多く、本当に楽しかったです。ありがとうございました。

私は4月から社会人になります。分からないことも多く、戸惑うことばかりだと思いますが、一生懸命、自分のペースで頑張っていきたいと思います。これからも先輩方からのご指導よろしくお願い申し上げます。

市民工学科 竹山 知里

大学に入学したての頃は、4年間という期間をとて長く思っていました。しかし、卒業が間近に迫った今では、とても短い期間であったように感じ、名残惜しい気持ちでいっぱいです。入学した当初は、新しい環境に慣れることができず、単位を取ることに必死で、自分が抱いていた大学生のイメージとの違いに戸惑いを感じる日々が続きました。しかし、友達ができたこともあり、徐々に慣れることができ、大学生活を楽しむことができるようになりました。

大学生になって、友達と旅行や舞台に行くなど、高校生の頃とは違った遊び方に大人になったような気がしてワクワクしました。また、友達と明け方まで飲んだり話をしたりすることが楽しくて、プライベートな時間と授業が忙しいことに充実感を感じたのを覚えています。

4回生になると研究室に配属され、初めて自分の机とパソコンが与えられ、大学での居場所ができたことにとても喜んだことを覚えています。研究室の先輩・同輩とは一緒にゼミ合宿や飲み会などに行き、授業に追われるだけでなく、自由に遊び回り、大学生活がより一層楽しいものになりました。先生方には、研究だけでなく様々な相談に親身に乘って頂き、その中で、チャレンジすることの大切さを教えて頂きました。1年間だけでしたが、この先生方・先輩方・同輩達と過ごせたことを嬉しく思います。

私は4月から社会人になります。大学生活で得た友達や研究室の先生方・先輩方・同輩達とのつながりを大切にし、新しい環境でも人と触れ合うことを大切に行きたいと思っています。不安を感じることもたくさんあると思いますが、大学生活で得た経験を生かし頑

張って行きたいと思います。大学生活でお世話になった先生方・先輩方・同輩達、そして友達に感謝の気持ちでいっぱいです。本当に有難うございました。

市民工学専攻 石田 和也

あっという間に6年間の過ぎ去り、卒業まで残すところあと1カ月となりました。ついに学生生活も終わりに近づいてきたんだなあとと思うと、感慨深いものがあります。思い返すと、勉強面で苦勞することも多くありました。とくに測量実習や土木実験では、レポートの作成に苦戦しました。テスト前は徹夜で勉強して試験に臨むこともありました。しかし、そんなときに友人の存在が助けとなりました。互いに相談しながらレポートを完成させたり、友人の家に集まって朝までテスト勉強したり、時には酒を飲み交わしながら将来について語り合いました。辛い時は励まし合い、嬉しい時には喜び合う、そんな熱い仲間がまわりについてくれたからこそ、今の自分があるのだと思います。

学部4年生では、宮本研究室に配属され、流域管理に関する研究を行いました。配属されて1年目は、初めてのことで戸惑うことも多く、同じ研究グループの先輩に何度も助けて頂き、本当にお世話になりました。そして、大学院に進学し、後輩たちもでき、研究室で唯一の修士1年生として研究室を引っ張っていく立場となりました。ゼミ運営やTAなどを1人でこなすのは大変だったけど、楽しんでできたし、とても勉強になりました。学会にも参加するようになり、発表などを通じて様々な経験を積むことができました。研究室のメンバーにも恵まれ、日常の研究はもとより、フットサル大会に参加したり、ゼミ旅行でラフティングを楽しんだりと非常に楽しい研究室生活を送ることができました。

神戸大学での学生生活を振り返ると、とても充実した時期であると同時に最も自身を成長させることができた日々だったと思います。4月から社会人として新たなスタートを切りますが、神戸大学で培った経験を胸に土木技術者として成長していきたいと思っています。

市民工学専攻 武市 淳

修士論文の提出を目前に控えた今、大学生活について思い返すことも多くなりました。これまで6年間通い続けた神戸大学も、あと2ヵ月足らずで卒業するのかなと思うと、少し感慨深くなります。18歳から24歳という一番いい時期を、この神戸大学で過ごせたこと、また、支えて頂いた人々には感謝の思いでいっぱいです。

私の大学生活は、3回生までの3年間と4回生からの3年間とで大きく変わりました。大学に入学してからの3年間は、部活に遊びにバイトにと、絵に描いたような大学生活を過ごしていました。そんな楽しく充実した大学生活も、社会という壁が見え隠れするようになると大きく変化し、自分を高めるため敢えて厳しいと噂の研究室を選びました。この選択は、修士論文も仕上がりつつある今、やはり間違いではなかったと思っています。研究室では、メンバーに恵まれ多くの時間を共有するなかで連帯感も強くなり、先輩後輩としてよい人間関係を築くことができました。研究に対して厳しいながらも、時に優しく指導してくれた鍛田先生には、本当に成長させて頂いたと感謝しています。

4月からは就職し、社会人として新たな生活が始まります。新生活に対する期待も非常に大きいのですが、これまでの節目とは違い、自分に対する責任という面で、もう周りの人に甘えてばかりはいられません。存分に遊んだ3年間、一つのことに必死に取り組んだ3年間、神戸大学で経験した多くのことを糧にして、最後にもう少しだけ遊んでから、社会に挑戦していきたいと思っています。

神戸 橋のある風景 Vol.3

大学時代に土木工学を学んだ我々が、誇りを持って土木構造物を眺められれば、との思いを込めて No.17 号から始めた本連載、いよいよ最終回とさせていただきます。今回は、神戸に架かる歴史的価値のある橋梁や、記念碑的な橋梁、世界に誇る構造を有する橋梁を紹介させていただきます。神戸の街が、土木事業と共に発展してきたことを実感して頂ければと思います。



①砂子橋（中央区）

布引ダムからの導水管を渡すために建造された石造のアーチ橋。我が国の重要文化財に指定されています。



②兵庫運河の架橋群（兵庫区）

神戸の明治三大土木事業の一つ、兵庫運河に架かる橋梁群です。なかでも JR 和田岬支線の旋回橋が印象的です。



③神戸大橋と神戸港突堤（中央区）

我が国初の RC 造ケーソンである神戸港第一～第三突堤と神戸大橋の風景は、港町神戸を代表する風景といえます。



④千刈橋（北区）

1919年に竣工した千刈ダムと千刈橋は、経産省の近代化産業遺産や土木学会の日本の近代土木遺産に選ばれています。



⑤ユニバーシアード記念歩道橋（西区）
大学生のオリンピックといわれるユニバーシアードが神戸で開催されたのは85年ですが、その1年前に造られた橋です。



⑥垂水 JCT（垂水区）
我が国最大規模を誇る JCT です。初めて通ったときはその規模に、迷子になった感覚?になったことを覚えています。



⑦水晶山橋（北区）
2 径間連続コンクリートアーチ橋としては、世界随一の規模を持つ阪神高速北神戸線の橋梁です。

⑧明石大橋（垂水区）
世界最長の支間長を持つ吊り橋です。五色塚古墳からは全景が見渡せ、時代を超えた技術力の対比に魅せられます。



⑨大輪田橋（兵庫区）
神戸大空襲と阪神・淡路大震災を乗り越えてきた、兵庫運河にかかる石造風のコンクリートアーチ橋です。



⑩衝原橋（北区）
建設当初は世界最大のエクストラドーズド PC 橋でした。紅葉の季節はつくはら湖に写る姿が一層美しくなります。

平成 23 年度の暁木一水会の活動予定

平成 22 年度の暁木一水会は、8 月に（株）ニュージェック取締役社長松本正毅様の「原子力発電に関する最近の話題」のご講演、11 月には和田山八鹿道路の円山川橋梁架橋工事の視察報告、2 月には芥川真一（新制 31 回ご卒業）教授から「モニタリングにおける新しいコンセプト “On Site Visualization” の現状と展望」のご講演を頂くなど年 4 回開催し、多くの参加者の中で、各種取組を実施することができました。

平成 23 年度は前年に引き続き、以下の行事を予定しています。会の名称からもお解り頂けるように、5、8、11、2 月の第 1 水曜日（祝日の場合は翌週）に行事を行っています。各回の案内及び申込み方法につきましては、開催日の約 1 ヶ月前に暁木会ホームページの行事予定欄でお知らせ致します。暁木会会員の皆様の奮ってのご参加をお待ちしています。

回数	開催日	演 題	講 師
117	H23.5.11	平成 23 年度兵庫県・神戸市・大阪府の主要施策	兵庫県、神戸市、大阪府職員
118	H23.8.3	未定	一般の講師等
119	H23.11.2	見学会	
120	H24.2.1	未定	母校の先生

場 所：楠公会館（湊川神社内） 会 費：4,000 円

同窓会報告

土木工学科 28 回生卒業 30 年会

神戸ルミナリエの期間中である平成 22 年 12 月 11 日（土）に、人が溢れていた南京町の中華料理店「長江」において、卒業 30 年会を開催しました。師走のなか 30 人の同窓生が集まり、また 7 人の恩師の先生方にもご参加いただきました。同窓生 2 人と先生 1 人が急遽参加出来なくなったことが残念でしたが、昔話、仕事、家庭や健康などの話で大いに盛り上がりました。三宮での 2 次会にも 21 人が参加し、その後ホテルの部屋においても缶ビールを片手に昔話などに花が咲いたようでした。

翌日は早朝 7 時半から、播州東洋ゴルフクラブにて 2 組 7 人でコンペを行いました。スコアの方はイマイチでしたが、楽しい時間を過ごすことができました。今後もコンペを開催したいという声も聞かれました。

30 年会で久しぶりに再会したところ、体形や頭皮の形状が随分異なっていたために、街中で会っても分からない人、人間ドックで何かと指摘されている人や大病を経験した人なども見受けられました。既に同窓生のうち 3 人が物故者となっており、次回の 40 年会に向けて健康に留意して、再会を誓って閉会となりました。

（文責：水口 和彦）



各支部の取り組みについて

暁木会では全国に4つの支部があり、各支部で各種取組を行っています。是非、異動などの際には、お近くの支部にお声掛けください。総会等の行事予定のご連絡を差し上げます。最近の活動概要をホームページに掲載しています。

支部名	会員数	支部長	事務局（問い合わせ先）	総会予定月
東京	770	長谷康生 ^㉑	野村 貢 ^㉒ (㈱建設技術研究所TEL03-3668-4310) E-mail : nomura@ctie.co.jp	6月
東海	46	宇佐見正重 ^㉓	都築 敦 ^㉔ (名古屋市TEL052-781-5211) E-mail : tuzukiatusi@rd.city.nagoya.lg.jp	8月
岡山	51	西垣 誠 ^㉕	江原 章 ^㉖ (岡山県TEL086-226-7478) E-mail : akira_ebara@pref.okayama.lg.jp	11月
広島	101	梅田眞三郎 ^㉗	高橋俊之 C98(復建調査設計㈱TEL082-506-1853) E-mail : t-takahashi@fukken.co.jp	7月

暁木会年会費納入のお願い

平成15年度から導入いたしました年会費につきましては、現在、1,000余名を数える会員各位にご理解とご協力をいただいています。本誌をもってお礼を申し上げます。

しかしながら、暁木会の安定した運営を行うためには未だ十分ではありません。名簿を発行するたびに、先輩方が残してくださった繰越金が減っているのが現状です。そこでこの傾向に歯止めをかけるべく、現在、クラス幹事や各職場の世話人を通じて会費納入の依頼を行っているところです。会費納入の手続きが未了の会員各位には、引き続きご理解とご協力お願い致します。なお、手続き等に関する問合せは、巻末の連絡先（野並）までお願い致します。手続き関連書類を送付させていただきます。年会費を納入していただいた会員には、暁木会会員名簿（4年ごと）または会員名簿訂正版（名簿発行年の中間年）を送付いたします。

※年会費の集金方法につきましては、現在、集金代行業者（三菱UFJニコス株式会社）に委託し、会員の指定金融機関から年1回の自動引落しの制度を採用いたしております。

おわりに

最後になりましたが、業務多忙の折、執筆を引き受けてくださった皆様に心からお礼申し上げます。また、会員の皆様から、本ニュースへの新企画、寄稿、ご意見などを募集しています。特に、同窓会をもたれたときは是非ご一報を下記連絡先まで下さいませ。

発行者：暁木会
 連絡先：会計幹事 野並 賢 C96
 応用地質株式会社関西支社
 TEL：06-6885-6357 FAX：06-6885-6903
 E-mail：nonami-satoshi@oyonet.oyo.co.jp
 http://www.gyoubokukai.jp

暁木会平成 22 年度総会のご案内

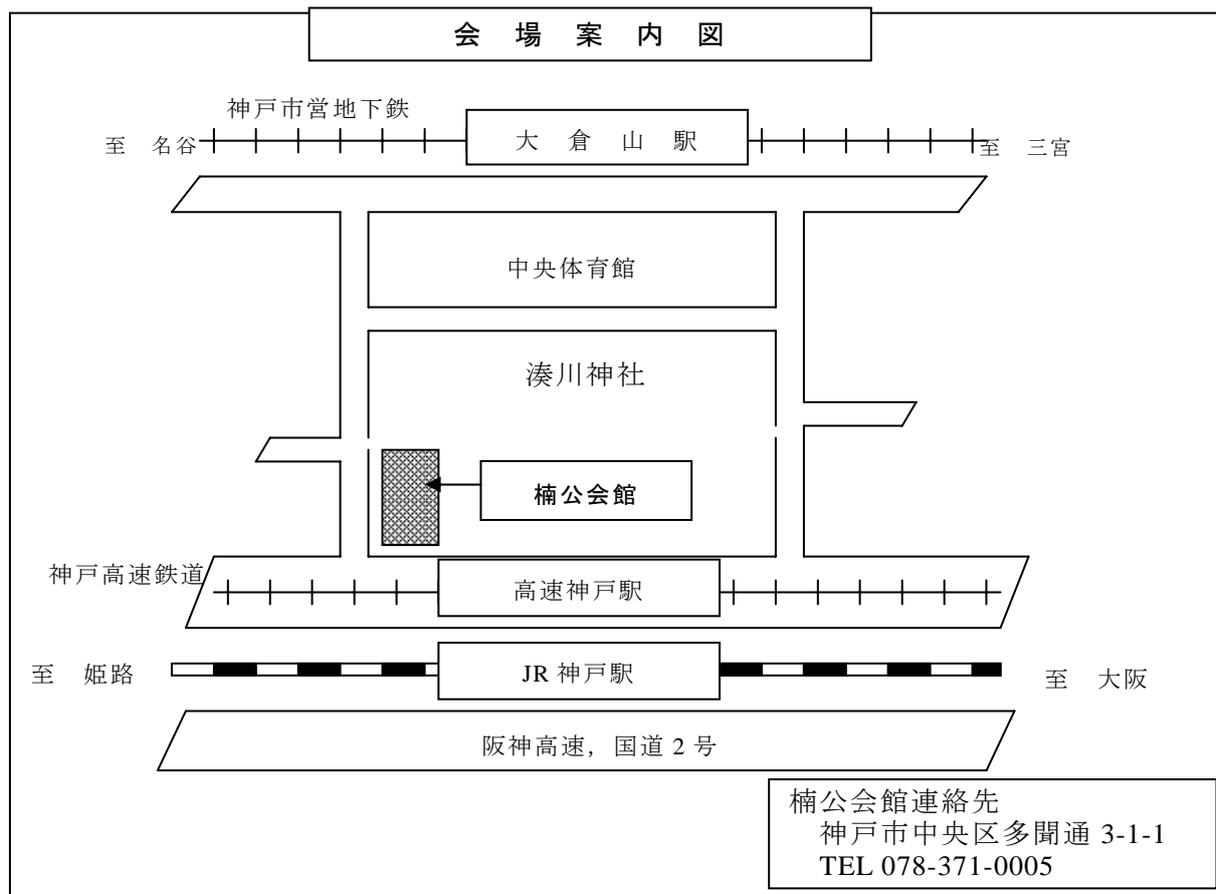
平成 22 年度総会を下記のとおり開催いたしますので、ご多忙の折とは存じますが、何卒ご出席のほどよろしくお願いいたします。

■日 時 平成 23 年 3 月 25 日（金） 午後 6 時～午後 7 時 10 分

■場 所 湊川神社 楠公会館

（最寄駅は、JR 神戸駅、高速神戸駅または地下鉄大倉山駅）

■その他 総会終了後、同会館内で懇親会を開催しますので、あわせてご出席いただきますようお願いいたします。なお、会費（5,000 円）は当日徴収いたします。



総会報告は暁木会の HP で報告する予定にしております。ご出席が叶わない方も、HP にて総会の様子をお楽しみいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。